

那須 鶏峠山

小沼 充範

- 山行年月日:2020年10月24日
- メンバー:小沼 充範
- コースタイム:大黒屋手前広場 11:30
～鶏峠山 13:00～下山開始 13:25～大
黒屋手前広場 14:10

鶏峠山は甲子温泉大黒屋の南側に位置する山である。那須・赤崩山や須立山から見下ろすと、阿武隈川右岸に鬱蒼とした森でおおわれこんもりとした山容で気になっていた。秋晴れの土曜日は紅葉が盛りで甲子トンネルの中は下り線の交通量が多い。大黒屋手前の坂道の広場に車を止め、11時30分出発。

甲子トンネル周辺は紅葉がとてもきれいだ。国道から大黒屋への入口傍に車を止め写真撮影をするマナーの悪

い人もおり、道路パトロール車が出て注意を促すほどである。国道下に地形図に記されている落石で荒廃した林道を見つかる。標高966m地点より山頂から北西へ延びる尾根へ取りつく。



鶏峠山から見る旭岳

尾根を登ると南側が急な崖となっている箇所がある。尾根はブナの原生林が広がり、藪が薄く登りやすい。標高1100



mを越えると、尾根は緩やかになり、下草が薄く庭園のような場所がいくつもある。木々の間から赤崩山、大白森山が見え、山の中腹から下が色づいている。青空の下、赤や黄色に色づいた森の中を登り、標高1230m付近より進路を東に進む。大きな岩場を越えると、平坦な地形となり、13時、山頂にたどり着き、三角点を容易に確認することができた。暖かい日差しが気持ち良く、木々の間に那須連峰を眺めながら昼食とする。近くではシカの鳴き声、山頂の下の方から国道を走る車の音が聞える。

13時25分下山開始。帰路は往路を下る。登り口14時10分着。大黒屋は15時まで日帰り入浴の営業をしているが、この日は行楽客が多いため日帰り入浴終了となっていた。甲子トンネルの中は観光を終えた車両で上り線の交通量が多くなっていた。少し遠いが湯の花温泉の石湯へ足を延ばした。鶏峠山は、道がないわりには下草が薄くて登りやすく、庭園のような場所もあり、ブナの原生林に覆われた雰囲気の良い静かな山である。

尾瀬・袴腰山と大江山

小沼 充範

- 山行年月日:2020年10月28日
- メンバー:小沼 充範
- コースタイム:御池7:00～沼山峠7:40
～小淵沢田代9:10～袴腰山10:45～大江山13:20～沼山峠15:40

御池から朝一番のバスに乗る。7時出発。乗客は私だけである。紅葉が終わり登山者は少なくなっている。今朝は冷え込み、手袋、帽子を付けるほどの寒さだ。沼山峠7時40分出発。霜が解けて濡れた木道は滑りやすく慎重に歩く。8時20分、小淵沢田代分岐に到着。湿地が朝日にあたり黄金色に輝いている。小淵沢田代方面へ行く登山者は誰もいない。針葉樹の中の道をたどると小淵沢田代である、9時10分着。南に新雪をいだいた日光白根山が見える。気温が上がり、帽子

と手袋を脱ぐ。周囲は物音ひとつせず、静寂だけが漂い、いつまでもこの湿地にいたくなる。

奥只見湖から延びる送電線の下に石碑を確認する。黒岩山へ行く登山道が下りになると、袴腰山から北へ流れる小沢が入り、この沢をつめて行く。水枯れの小沢をつめると平坦な針葉樹の森へ導かれる。根曲り竹が束になって生えており、うまく根曲りの藪を避けて進むこと



袴腰山頂上

ができる。倒木の目立つ森の中から燧ヶ岳、黒岩山が見える。コメツガの根元にはわずかながらの新雪が残っており、今年最初の雪を握りしめることができた。袴腰山頂上、10時45分着。登山道から南へ外れた所にある山頂は倒木があるため小さな広場となっている。山頂からは黒岩山方面の展望があるだけであり、三角点はないものの木のプレートを確認することができた。根曲り竹の密藪で苦労するかと思っただが、案外素直に登れた。これなら送電線から大江山を経て沼山峠へ下れるかもしれないと考え、11時、袴腰山頂上を後にする。コメツガ林の中、うまく根曲り竹の藪を避け11時30分、登山道に戻ることができた。石碑まで戻り、送電線の点検道を登り、11時50分、稜線上の根曲り竹の密藪に突入する。

最初は藪が濃いものの、やがて根曲り竹の藪がまばらとなり、その間を進む。稜線は平坦でありガスが濃ければ、ナビが欲しくなる場所である。生憎、ナビは持っておらず、地形図と周囲の景色を確認しながら進む。実川側の等高線は密になっており、実川側にルートを取り、実川流域、会津駒を眺めながら進む。コメツガの森の中を進むと広い空間となり、湿地に飛び出す。標高1880m付近の湿地記号の場所であろう。下草の薄いオオシラビソとダケカンバの林となり、テントを張ってくつろぎたくなる場所である。大江山への緩やかな登りとなり、広大な湿原に飛び出す。大江山南西部付近であり地形図には湿地記号が記されていない。思いがけず素晴らしい湿原の発見

は、道のない山ならではのおもしろさである。背丈ほどの根曲り竹の藪をこいで行くと大江山の頂上のようにあり、藪の中に三角点を確認する、13時20分。山頂は木々に覆われており、三角点の北側は下草の薄いオオシラビソ林であり、そこで休憩する。木々の間から遠くに越後荒沢岳が見え、大杉岳の手前には沼山峠休憩所を見下ろすことができる。東には帝釈山、孫兵衛山、黒岩山が見える。山頂を示すプレートはなく、ここに登る人はほとんどいないであろう。とても静かで心地よい山頂である。

14時下山開始。上曲沢が見える緩やかな稜線の北側にルートをとる。密藪から解放され下草の薄い針葉樹となるが沼山峠手前では再び根曲り竹の藪の藪こぎとなる。15時、沼山峠の登山道に飛び出す。このまま下るのはもったいなく思い、展望台のベンチに寝ころび暖かい日差しを浴びながら休憩する。沼山峠休憩所15時40分着。マスクを付け、御池行きのバスに乗り込む。

送電線から大江山にかけての稜線は猛烈な根曲り竹の藪をイメージしていたが、意外と藪が薄く広大な湿原が点在



大江山南西の湿原

し、下草の薄いオオシラビソ林がとても
美しかった。晩秋の静かな尾瀬の山々を
楽しむことができた。

